

# 国際協力の現場を語る

JICA（ジャイカ：国際協力機構）は、開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア（40歳～69歳）を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違ったいろいろな体験をしてくれています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日 時：毎月第3水曜日 15時30分～17時  
 会 場：JICA 横浜 会議室またはセミナールームなど  
 会 費：無料（どなたでも自由に参加出来ます）  
 主 催：NPO「シニアボランティア経験を活かす会」  
 後 援：JICA 横浜



（やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページまたは下記問い合わせ先に確認して下さい）

問合せ先：横浜市中区新港2-3-1 JICA 横浜3階 国際協力連絡室内  
 シニアボランティア経験を活かす会 神奈川分科会

Fax:045-663-3263 担当：白井道雄（045-891-5490）

URL [jicasvob.com](http://jicasvob.com) E-mail [info@jicasvob.com](mailto:info@jicasvob.com)

赴任国（講師名）	「タイトル」 講演概要	
第111回 11月19日 （水） カンボジア （玉井功一）		<b>「食品微生物検査」</b> 2006年クメール正月明けに大学に赴任した。王立農業大学において食品微生物の構築および学生の基礎教育を目的として活動。始めとして現状確認、機器、機材、試薬の設置状況。講義の為の資料作り、優先導入機器の選択および導入処理、スタッフおよび学生に対する微生物の講義実施、学生に対する微生物基礎試験実施。2年間学生、大学スタッフと交流した。
第112回 12月17日 （水） ガーナ （北脇和夫）		<b>「ガーナの伝統と将来」</b> ガーナ国立ケープコースト大学生物科学部の教員として活動した。「生物統計学」の授業を担当し、卒業研究や論文の指導をした（データ解析法等）。「教師の言うことを丸暗記する」的な旧弊が残る中、本質を捉えること、視覚的な理解、手を動かして結果を出すことを強調して授業・指導に当たった。この間同僚・学生と語り合ったのはガーナの将来や伝統について。
第113回 1月21日 （水） インド （笹田三郎）		<b>「視覚障害をもつボランティアのインドで新たな挑戦」</b> 1. 人は成熟すると若くなる：自ら企画し、想定外の事態に見舞われること。 2. 頭脳のタスク切り替え：別の判断基準で自己を見つめる。 3. 手は口ほどにものを言う：生徒たちと共鳴を得る。コラボレーションから社会貢献を自覚。 4. 別世界体験の勧め：頑固なインド人気質：インド社会から学ぶ。
第114回 2月18日 （水） エクアドル （後藤由美子）		<b>「エクアドルでの活動をふりかえり」</b> 私は青年海外協力隊で経験があり、50歳代でもう一度海外へ出たいと考えて応募しました。赴任地はエクアドルで、2,800メートルの高地にある県立総合病院でした。病院は、日本人は私一人だけでしたが皆親切で働きやすい職場でした。でも時々思ったように時間が流れて行かず、あせることもありました。病院以外の活動では小学校での衛生教育や地域の人達への折り紙教室を行い盛況でした。
第115回 3月18日 （水） メキシコ （鈴木 新）		<b>「メキシコでの5S/KAIZEN」</b> メキシコには、日本の大中の企業が多数進出しており、活発な生産活動を行っているが、ローカルの製造業の生産技術・生産管理はこれからである。私は各地の工業高校の先生方を研修する機関（CNAD）へ派遣され、工場支援の機会は少なかったが、CNADでの5S活動の展開、先生への研修支援、さらに外務省スタッフへの5S研修の機会を得た。これらの活動とメキシコの方々との交流紹介を行う。